



## Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コマンド

---

- 「**accounting**」
  - 「**client-side**」
  - 「**enable** (アカウンティング)」
  - 「**event**」
  - 「**header** (アカウンティング)」
  - 「**server-side**」

# accounting

アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **accounting** コマンドを使用します。アカウンティング コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト値に変更するには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**accounting**

**no accounting**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS アカウンティングはイネーブルではありません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始して RADIUS アカウンティングを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct) >
```

次の例では、アカウンティング コンフィギュレーション モードで入力されたすべての値をデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > no accounting
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>enable</b> (アカウンティング)	Cisco Unified SIP Proxy で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# client-side

クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **client-side** コマンドを使用します。クライアント側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**client-side**

**no client-side**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS のクライアント側アカウンティングはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

クライアント側アカウンティングとは、REP SIP 要素（この場合は Cisco Unified SIP Proxy）がクライアントとして動作し、要求を送信する（INVITE/BYE を送信する）発信側のアカウンティングのことです。呼のクライアント側のアカウンティングは、全体について（またはノードについて）イネーブルまたはディセーブルに設定できます。イネーブルにした後に、クライアント側のトランザクションで定義されるアカウンティングのトリガーによって、アカウンティングの動作を詳しく定義します。

## 例

次の例では、クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> enable
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> client-side
```

次の例では、クライアント側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> no client-side
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>enable</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。

コマンド	説明
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# enable (アカウンティング)

Cisco Unified SIP Proxy で RADIUS アカウンティングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **enable** コマンドを使用します。RADIUS アカウンティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable**

**no enable**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS アカウンティングはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**enable** コマンドを入力すると、すべてのアカウンティング関連のコマンド設定が有効になります。コマンドが変更されなかった場合、デフォルトの設定値が有効になります。

RADIUS アカウンティングがディセーブルの場合、**client-side** コマンドと **server-side** コマンドがイネーブルの場合でも、アカウンティングは実行されません。RADIUS アカウンティングがイネーブルの場合、**client-side** コマンドがイネーブルの場合はクライアント側でアカウンティングが実行され、**server-side** コマンドがイネーブルの場合はサーバ側で実行されます。

## 例

次の例では、RADIUS アカウンティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> enable
```

次の例では、RADIUS アカウンティングをディセーブルにし、Cisco Unified SIP Proxy のその他すべての設定よりも優先する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> no enable
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。

## ■ enable (アカウンティング)

コマンド	説明
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# event

RADIUS アカウンティング イベントを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **event** コマンドを使用します。RADIUS アカウンティング イベントを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event {server | client} {request | response} sequence sequence-number {start | interim | stop | stop-fail} [condition condition]
```

```
no event {server | client} {request | response} sequence sequence-number {start | interim | stop | stop-fail} [condition condition]
```

## 構文の説明

<b>server</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>client</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>request</b>	SIP 要求の受信時に発生する RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>response</b>	SIP 応答の受信時に発生する RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>sequence</b> <i>sequence-number</i>	RADIUS アカウンティング イベントのシーケンス番号を指定します。
<b>start</b>	RADIUS アカウンティングの <b>start</b> イベントをイネーブルにします。start イベントは、正常な呼の確立の、INVITE 要求に対する 200 Ok 応答などです。
<b>interim</b>	RADIUS アカウンティングの <b>interim</b> イベントをイネーブルにします。interim イベントは、ダイアログ中の、re-INVITE 要求などです。
<b>stop</b>	RADIUS アカウンティングの <b>stop</b> イベントをイネーブルにします。stop イベントは、正常な呼の完了の、BYE 要求などです。
<b>stop-fail</b>	RADIUS アカウンティングの <b>stop-fail</b> イベントをイネーブルにします。stop-fail イベントは、呼の確立エラーの、INVITE 要求に対する非 200 最終応答などです。
<b>condition</b> <i>condition</i>	(オプション) <b>trigger condition</b> コマンドを使用して設定する条件の名前を指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

**例**

次の例では、サーバ トランザクション側で要求を受信したときに、トリガー条件 `c1` を満たす場合に送信する RADIUS Start イベントを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> event server request sequence 1 start condition c1
```

次の例では、サーバ トランザクション側で応答を受信したときに、無条件に送信される RADIUS Stop イベントを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> event client response sequence 1 stop
```

次の例では、要求 トランザクションの start イベントの場合にサーバ側の RADIUS アカウンティングを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> no event server request sequence 1 start
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>enable</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# header (アカウンティング)

RADIUS メッセージに含める SIP ヘッダーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **header** コマンドを使用します。RADIUS メッセージから SIP ヘッダーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header header-name {request | response}
```

```
no header header-name {request | response}
```

## 構文の説明

<i>header-name</i>	SIP ヘッダーの名前を指定します。  Cisco Unified SIP Proxy 1.0 では、RADIUS アカウンティング イベントのサポートされる SIP ヘッダーは <b>via</b> ヘッダーだけです。
<b>request</b>	SIP 要求ヘッダーが RADIUS メッセージに含まれることを指定します。
<b>response</b>	SIP 応答ヘッダーが RADIUS メッセージに含まれることを指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して指定したヘッダーは、(**event** コマンドを使用して設定される) **Start** および **Interim RADIUS** メッセージにだけ追加されます。**Stop** メッセージについては、ヘッダーは **Stop-fail** イベントのためにだけ存在します。

## 例

次の例では、要求 SIP メッセージの **via** ヘッダーを RADIUS アカウンティング メッセージに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> header via request
```

次の例では、RADIUS アカウンティング レコードから、要求 SIP メッセージから取得した **via** ヘッダーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> no header via request
```

## ■ header (アカウンティング)

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>enable</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# server-side

サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **server-side** コマンドを使用します。サーバ側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server side**

**no server side**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS のサーバ側アカウンティングはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

サーバ側アカウンティングとは、REP SIP 要素（この場合は Cisco Unified SIP Proxy）がサーバとして動作し、トランザクション要求 12（着信 INVITE/BYE）を受信する着信側のアカウンティングのことです。呼のこちら側のアカウンティングは、全体について（またはノードについて）イネーブルまたはディセーブルに設定できます。イネーブルにする場合、サーバ側のトランザクションで定義されるアカウンティングのトリガーによって、アカウンティングの動作を詳しく定義します。

## 例

次の例では、サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> enable
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> server-side
```

次の例では、サーバ側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0(cusp-config-acct)> no server-side
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>enable (アカウンティング)</b>	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。

コマンド	説明
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。